

維新演劇シアター

8月、10月と開催し、好評の維新演劇シアター、11月1日(日)は「明治維新ラブソディ」と題して、坂本龍馬を交えて西郷隆盛、大久保利通と龍馬ゆかりの地を紹介し、3人の残した功績をおさらいします。

11月22日(日)からは、没後150年を迎えた「小松帯刀」が題材に!幻の宰相とよばれた薩摩藩家老・小松帯刀の半生を描くはずが…。

西郷はじめ他の偉人たちの横やりが入り、七転八倒歴史小噺乞うご期待。

開催スケジュール

2020年 11月	1日・22日・29日
12月	27日
2021年 1月	2日・3日
上記の12:30~13:00 (30分間)	



▲「(仮)小松帯刀の家老はつらいよ」

温故地新

ふる故きをたずね、地元を新たに。

夏休み親子歴史講座に70名参加

7月26日に小学校高学年と中学生を対象とした夏休み親子歴史講座「銅像による鹿児島の歴史」を開講しました。今回は鹿児島市内に点在する17の銅像について学びました。

銅像のモデルとなった人物の功績やその場所に建てられた理由、そしてあまり知らない銅像にまつわるエピソードなど盛りだくさんの内容に、子どもたちはもちろん保護者の方も熱心に聞き入っていました。講座の後は毎年好評のワークショップ。好きな歴史上の人物を描いたオリジナルのキーホルダー作りを楽しみました。



▲歴史の裏話に興味深々

教職員講座、今年も開講

郷土教育に活かしてほしいと、8月17日・18日の2日間、鹿児島県内の教職員34名を対象に、教職員歴史講座を開講しました。

講座では幕末から明治にかけての薩摩の歴史を6つのテーマに分けて学び、毎年人気の自顕流実技体験では、威勢のいい気合の声を出しながら、打ち込みに汗を流しました。

参加者からは「この経験を学校の授業で子どもたちに話したい」「一撃必殺の気迫を肌で感じることができた」などの声が寄せられました。



▲猛暑の中、力いっぱい「続け打ち」

重豪、薩摩の科学技術の基礎を築く



重豪、薩摩の科学技術の基礎を築く

(鹿児島市東千石町)

維新を歩く

薩摩藩25代藩主島津重豪は加治木島津家に誕生し、宝暦5年(1755)に11歳で藩主となり、天明7年(1787)43歳で隠居しましたが、その後も藩主を後見、天保4年(1833)89歳で亡くなるまで、幕末薩摩に大きな影響を与え続けました。

重豪の特色は、「蘭癖大名」と言われる如く、当時の保守的気風の中にあって進歩的な思想をもち、積極的な開化政策をとったことです。

無骨な薩摩気風矯正のために「繁栄方」という係を置き、積極的に上方の文化を導入したり、オランダ商館長やシーボルトなど外国人と親しく交わったりして文化事業に取り組み、造士館・演武館・医学院・薬園・明時館などの建設や各種の編纂事業を起こしています。

安永2年(1773)に創設した医学院は、はじめは漢方医の養成と薬草研究を目的していましたが、長崎のシーボルトのもとに医師を派遣するなどオランダ医学も研究させています。

安永8年(1779)には、天文・曆学研究のために、明時館を創設しました。薩摩では、もともと暦をつくる暦官を置

いて、幕府が改暦するたびに江戸の天文方に派遣して新暦法を学ばせたので、優秀な天文学者が輩出しました。初代館長となった水間良実も、幕府の天文台で観測に従事したあと、重豪に見いだされて初代暦正知官事となりました。

明時館は広さ632坪(約2千m²)の敷地に、渾天儀や枢星鏡、望遠鏡などを設置して天体や気象観測を行い、薩摩暦を編纂して藩内に頒布していました。元来、和暦は幕府天文方が編纂した全国一律のものだけでしたが、薩摩は江戸から遠くで暦本を容易に入手できることや琉球貿易のためという特別な事情などから唯一、藩独自の暦を作成することが許されていたようです。

重豪はまた、語学(中国語、オランダ語)や動植物の研究(成形図説・質問本草・鳥名便覧編纂など)にも取り組むなど、幕末にあって進取の気風に富み、のちに薩摩藩が日本近代化に向けて積極的に海外文化を取り入れる基礎を築いたと言えます。

重豪に大きな影響を受けたひ孫の齊彬による、集成館事業もその基は重豪の開化政策にあったと言っていいでしょう。(文・肥後秀昭維新ふるさと館歴史解説員)

“若き薩摩の群像”に2人加わる

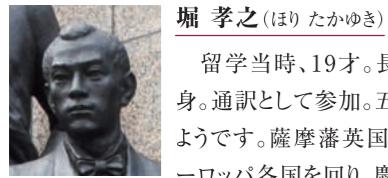
鹿児島中央駅前の広場の一角に建つ「若き薩摩の群像」は、薩摩藩英国留学生一行の像です。

薩英戦争でヨーロッパの力を知った薩摩藩は、慶応元年(1865)青少年15名と使節団4名の19名を密かにイギリスへ派遣し、一行が習得した学問や最先端の技術は、日本の近代化や国際化のあらゆる分野で大きく貢献しました。

これまでの群像は、昭和57年(1982)に鹿児島市50万都市達成を記念して建立されたもので、17体の像が並んでいましたが、新たに長崎出身で通訳として参加した堀孝之と、土佐藩出身で薩摩藩士となつた高見弥一の2人が薩摩藩英国使節団のモニュメントに加わりました。

新たな2体の像は、朝倉盛明の横に並んで、椅子に腰かけた堀とステッキを持って佇む高見を配置しました。この他の17体も青銅を落とすなど修復を終え、豊かな表情に生まれ変わりました。

維新ふるさと館では、留学生たちがイギリスへ渡る経緯や様子を「薩摩スチューデント、西へ」と題して、史実に基づき再現したドラマを大型スクリーンを使って上映しています。19名は何を見て、何を思い、何を感じたのか。是非、ご友人同士やご家族などでお楽しみください。



堀 孝之(ほり たかゆき)

留学当時、19才。長崎のオランダ通詞(通訳)堀家の生まれ。長崎出身。通訳として参加。五代友厚の長崎海軍伝習所時代から親交があったようです。薩摩藩英国留学生として渡欧中は、新納・五代・寺島とともにヨーロッパ各国を回り、慶応2年3月帰国しました。五代が実業界に転進してからは五代の事業を助け、五代の死後は遺族の世話をしていたそうです。

堀家と薩摩藩の関係は深く、島津重豪が『成形図説』の編纂のために、孝之の曾祖父にあたる堀家5代堀門十郎を薩摩藩に召抱えています。明治44年(1911)67歳で死去。



高見 弥一(たかみ やいち)

留学当時、薩摩藩開成所第二等諸生。蘭学専修。31歳。土佐藩の出身で、尊皇攘夷派の土佐勤王党の一員として吉田東洋暗殺事件を起こし、薩摩藩邸に匿われた大石團藏のこと。薩摩藩に取り立てられて後、高見弥一を名乗りました。帰国後、いったんは明治政府に出仕し、大阪運上所勤務を命ぜられますが、明治5年(1872)には鹿児島に戻り、その後鹿児島で算術教員として過ごしました。明治29年(1896)2月28日鹿児島で死去、62歳。

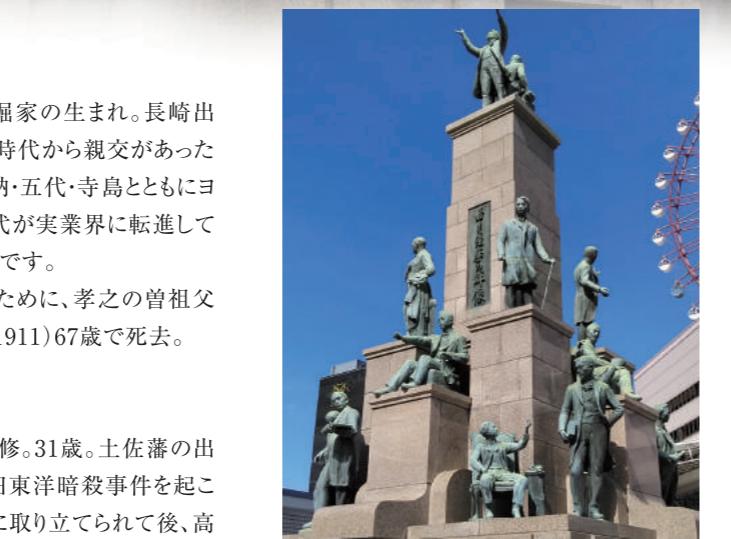
薩摩藩英国留学生記念館

彼らの渡欧の地“串木野羽島”に平成26年(2014)に薩摩藩英国留学生記念館が建立されました。

慶応元年(1865)、イギリスで学問や最先端の技術などを学び、日本の近代化に貢献した薩摩藩英国留学生の足跡と業績を紹介しています。

〈住 所〉いちき串木野市羽島4930
〈電 話〉0996-35-1865 〈FAX〉0996-35-1105
〈W E B〉<http://www.ssmuseum.jp/>

羽島浜に建つ薩摩藩英国留学生記念館(写真提供:薩摩藩英国留学生記念館)



上:改修後のモニュメント/
下:改修前のモニュメント
(写真提供:鹿児島市公園緑化課)



もっと知りたい方は

第1回 かごしま折々あそび展

8月5日(水)～30日(日)まで、四季折々の折り紙や鹿児島昔あそびやことばあそびうたを紹介するかごしま折々あそび展を開催しました。

展示には御楼門から疫病除けの「アマビエ」、西瓜や七夕飾りなど季節を感じるものまで色とりどりの作品が並びました。期間中の土日は折り紙体験や、おはなし会などを開催し、子どもから大人まで鹿児島の歴史や文化、鹿児島弁に親しんでもらう機会になりました。中でも折り紙体験は、大人も夢中になるほど人気で賑わっていました。

第2回かごしま折々あそび展は、12月18日(金)～1月7日(木)です。展示期間中の土日は大人から子どもまで楽しめる体験も実施します。知っているようで知らない鹿児島弁の世界を楽しんで頂けたらと思います。また、季節を感じる折り紙や当館のオリジナルキャラクターの折り方も教えます。是非、お立ち寄りください。



会期 2020年12月18日(金)～2021年1月7日(木)

体験時間 13時～16時(土日のみ開催)

※「ことばあそびうた」のみ 13時30分～50分、14時30分～50分

19(土) ①「おりがみあそび」 26(土) ①「おりがみあそび」
20(日) ②「わらべうたと昔あそび」 27(日) ③「ことばあそびうた」

第13回 西郷隆盛をしのぶ 維新ふるさと館書道展

今年も西郷が没した9月24日をはさむ9月23日(水)～10月22日(木)まで、第13回西郷隆盛をしのぶ維新ふるさと館書道展を開催しました。第13回となる今年度は書道展が始まって以来、作品応募数は2,374点と過去2番目に応募数が多く、全国から力作が集まり大変見応えのある作品が並びました。



見応えのある書がズラリ

「小松帶刀」史跡めぐりバスツアー

10月8日(木)、今年没後150年を迎える薩摩藩家老・小松帶刀ゆかりの地を巡るバスツアーを開催しました。

小松家墓地である園林寺跡や小松家の菩提寺である清浄寺など当時に思いをはせながら日置市にあるゆかりの地を訪ねました。

清浄寺では、小松帶刀の妻・お近の所有していた阿弥陀如来像を拝観するなど貴重な体験ができました。

当館では毎年バスツアーを計画しています。詳細が決まりましたらHPや当館情報誌でお知らせいたします。次回のバスツアーもお楽しみに。



◀

小松帶刀の墓